

## カナチヨロ名人



この春に、我が家の三女が4年間過ごした「たけの子」を卒業します。入園は3歳…と言っても、初めてたけの子にやってきたのは、姉達が入園した時です。ですので実際には一歳の頃からすでに娘の遊び場は「たけの子」でした。

物事ついた時から自然の中で遊んでいた娘は、虫や生き物が大好きで、何でも捕まえては「おうちでかう！」と言って大事そうに持って帰ってきていました。

年少さんの頃、お姉ちゃんが捕まえてきたカナチヨロを触らせてもらったことがありました。今まで見てきた虫とは全然違います。長〜いしっぽに恐竜のような顔、ツメもはえてるしペロもある…それが彼女とカナチヨロの初めての出会いでした。

それからというもの、すっかりカナチヨロにハマってしまった娘。今ではカナチヨロを捕まえる事に関しては、おそろくたけの子史上ナンバーワン(?)の腕前です。普段はマイペースで少しボートしている娘ですが、草むらを見つけると、「ここ、カナチヨロいそうだね!」と目を輝かせ、あつという間に数匹捕まえてくるのです。どうやってみつけるの?と聞くと、「地面を、ふみつけて、そうするとカナチヨロが動いた時に葉っぱの音がするから。そこにいるんだよ」と教えてく



れました。

ある時、自分で捕まえたカナチヨロをペットにしたいと言うので、「お世話全部自分でやる」という約束で家で飼い始めました。私はすぐに逃す事になるだろうと思っていたのですが、どこで教わったのか、ちゃんとエサになる虫をとってきて、土も敷いてあげ、身を隠せる石ころや葉っぱまで用意してありました。「カナチヨロは、にくしよくだから虫食べるんだよ!でも生きてるやつじゃないと食べないの」という事も娘から教えてもらいました。そうしてお世話しているうちに、なんとカナチヨロは土の中に卵を産み、無事に赤ちゃんまで生まれてしまったのです。生まれたての小さなカナチヨロを発見した時は、とても感動しました。娘を心から尊敬した出来事でした。



幼い頃からいろいろな生き物が身近にいる環境は、子供にとって本当に大切な事なんだなあ、しみじみ実感しました。まさに自然が先生なのです。誰にも教わる事なく、自分で見つけて、触ってみて、観察してみる。そうやってたけの子の子供たちは自然の中からたくさんのお話を学んでいくのだなあと思います。



4月からは一年生。娘がランドセルに選んだ色は、もちろんカナチヨロ色(茶色)です。笑  
今までのたけの子の環境とはガラッと変わってしまいましたが、これまで培ってきたたけの子パワーを存分に発揮して、どんな事にも興味を持ち毎日元気に過ごして欲しいと願っています。

この場をお借りして、これまで子供達を温かく見守って頂いたスタッフの方々、近所の方々、毎日一緒に遊んでくれたお友達、ボランティアに来て下さった方々、保護者の皆さん、たけの子を支援して下さい下さる全ての方々に感謝致します。どうもありがとうございます。

下山田菜穂子

